

建設業と地域の元気回復助成事業

地域経済が厳しい状況の中、建設業の保有する人材、機材、ノウハウ等を活用し、農業、林業、福祉、環境、観光等の異業種との連携に地域づくりの担い手である建設業の活力の再生、雇用の維持・拡大や地域の活性を図ることが求められている。このため、地域における問題意識を共有した上で、地域関係者が協議会を構成し、異業種との連携による地域活性化策を立ち上げた。



「建設業の人材と知恵を生かした留萌観光元気プロジェクト」留萌観光元気プロジェクト協議会

プロジェクト名	実施内容
留萌海岸観光情報センター	留萌海岸観光情報センター・海岸情報の提供
マリンレジャー・スポーツの振興	海上プレジャーランド・水上バイク・ビーチバレーコート・オートキャンプ・テント村
海岸再生・復活	磯辺の再生・藻場の活用

お問い合わせ先：留萌建設協会内 0164-42-0965 H23.3.9



海上プレジャーランドの開設

期間：H22.7.31・8.8
内容：海上チャリティー・バルーン教室・たこ飯販売

海上プレジャーランド



バルーン教室



るもいたこ飯販売



海上ギャラリー



磯辺の再生と藻場の活用検討

磯辺再生（置き石の設置）H22.7～



人エリーフの藻場イメージ



藻場調査風景



留萌海岸観光情報センター（ホームページ）

アドレス：http://www.rumoi-rsisa.jp/beach/



WEBカメラ
海の上から見る景色

QRコード
はこちらから



水上バイク
試行開放



水上バイク

海上プレジャーランド

磯辺の再生 藻場の活用検討



サーフィン

瀬越海岸

るもいオート元気サイト
(オートキャンプ場の開設)

ゴールデンビーチのるもい
開催期間：H22.7.10～8.22



管理棟（トイレ・シャワー）



トイレ：4月下旬～9月末

水上バイク試行開放

期間：H22.8.7・8
対象：限定開放（11人）
遊覧区域：沖見海岸前



ビーチ賑わいづくり

ゴールデンビーチのるもい・南交点
開催期間：H22.7.31・8.8

海洋生物自然観察会 凧上げ



元気テント村の開設

ゴールデンビーチのるもい
開催期間：H22.7.10～8.22



元気ビーチバレーコート の常設

ゴールデンビーチのるもい
開催期間：H22.7.10～8.22



浜中海岸

ゴールデンビーチ

元気テント村

■ 海岸観光情報センターの設置

観光資源として発展可能性のある西海岸の海岸観光とマリンスポーツ情報を発信・提供と観光客サービス提供のための「海岸観光情報センター」の設置検討と実証を行う。

通年をとおしての。観光情報提供により、海岸観光客やマリンスポーツ、キャンプ、釣り客を呼び込み、活性化を図る



「留萌海岸観光情報センター」6月24日開設！

<http://www.rumoi-rasisa.jp/beach/>

留萌観光元氣プロジェクト協議会は、Web版「留萌海岸観光情報センター」を6月24日(木)開設しました。当情報センターはインターネットを通じて留萌海岸に関する様々な情報(ライブカメラ・海岸の駐車場情報・海岸や市内のイベント情報・留萌の観光情報など)を提供していきます。また、サーファーや釣り客のための「情報ブログ」の設置と携帯電話への情報提供も行います。



■ マリンレジャー振興策の策定

この海岸には様々なマリンスポーツの可能性がある。

季節に限らず良い波を求めてくるサーファーや水上ハイカーが多くなっている。

また、ゴールデンビーチでは全道大会規模の大会が行われている等、夏場は大変な盛況になっている、しかしながらマリンスポーツを通年通して楽しめる環境になっていないことが海岸観光副生化の大きな支障となっている。

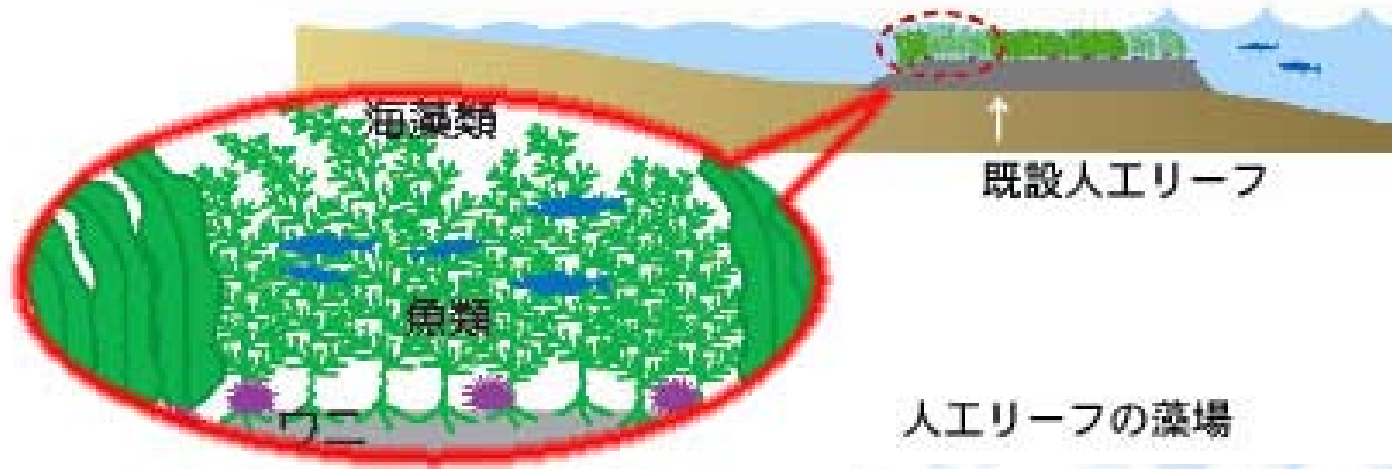
本事業では、支障となっている問題に視点をあて解決策を見だし、具体策を実施した。



■ 海岸の磯辺再生にかかる調査検討と実証

この海岸はかつて鯨の採れた良好な浜であったが、浜周辺の環境変化、海流の影響などにより石幾部が失われてしまった。一方、5年前に築造された波消しリーフに昆布やワカメなどが定着し、「藻場化」していることが分かった。

本事業では、この藻場を調査し観光に活用できないか、またこの海岸をもう一度「磯辺」に再生できないかを実証した。



■期待される具体的な効果 <建設業界への波及効果>

これまでの留萌の建設業は公共事業を中心とした受け身の産業であった。本事業は、建設業が抱える人材や機材を活用して、他の産業・異業種と連携して新分野に進出するものであり、自ら仕事を創るといったこれまでの建設業の体質改善が図られることになる。

1. 建設業の活力の再生

- 1) 長年、留萌の海岸、潜、道路等の工事してきた建設業の経験が、今回の海岸観光開発に生かすことが出来る。特に留萌の都市基盤を建設し地元精通している建設業が、地元の観光業へ進出し留萌の活性化に貢献することは極めて意義あるとともに、建設業の復活再生のきっかけになる。
- 2) 建設業には高学歴者が多く優秀な人材を抱えている。また、業務上ITにも精通している人材も多いことから、海岸観光開発の計画策定と実施、観光情報センターの開設等への活用には大きな期待が持てる。人材の新分野への進出とともに建設業の領域拡大になり、建設業の活力再生になる。
- 3) 公共事業待機の人材や機械等を、本事業の様々な企画・事業に稼働させることで、人材・機械の活用領域が広がり、建設業の多様化と活性化になる。
- 4) 本事業のミ每岸再生・復活への取組によって、これまでの造るという建設業から環境再生事業という新分野への開拓が可能となり、建設業の活力再生になる。

2. 地域への効果

留萌市には大きな産業がなく第三次産業で成り立っている都市であり、観光産業の進展は、留萌の地域経済そして街の活性化にとって大きな効果となる。

- 1) 留萌に新たな海岸観光資源が開発されることで、観光客の大きな誘客効果になる。
- 2) 観光情報センターから、留萌のマリンレジャー・マリンスポーツの情報を発信することで、全国から観光客が増大する可能性が大きい。
- 3) 建設業が観光分野に進出することで、留萌市の新たな観光戦略の策定が可能になる。
- 4) 全国初の「海上プレジャーランド」が海岸観光の魅力を高め集客力をアップする。
- 5) 建設業が元気になり、留萌が元気になることで若者が定着する。